

# 第29回 京都図書館大会（オンライン）

大会テーマ: ウィズコロナ時代の図書館

## ウェブでつながるコミュニティ ～動き続ける図書館をめざして～



2020年11月30日

県立長野図書館 企画協力課  
主査(司書) 朝倉 久美

“図書館サービス”とは何か

なぜ“コミュニティ”が必要か

三つの  
自問自答

“みんな”とは誰か



「これからの公共について考えるための対話」シリーズ第4回

web 開催

信州・学び創造ラボ開設1周年記念

# 「こっそりごっそり としょかんをかえよう」

公共空間としての図書館をデザインする

**4月25日(土)**  
13:00-16:00

- 三浦 文典 さん(スター・イロップ)  
李明喜 さん(アカデミック・リソース・ガイド)  
瀧内 貴 さん(コトノエリグラム)  
平賀 研也 さん(前・県立長野図書館長)

信州・学び創造ラボ開設1周年を記念して、  
県立長野図書館がみなさんと「これからの図書館の空間」について考える対  
話企画を6月6日の2016年の対話でした。

信州大学で建築を学ぶ学生11人が主体となり「これからの図書館(場)の  
企画」をキックオフ。  
1年かけてワークショップ参加者と共に、これからの図書館で体験したい「知」  
の空間を議論しつつ、「もしも県立長野図書館をリノベーションするとしたら」  
という前提で理想空間や提案が互いに広まりました。  
一連のワークショップは、地域デザインコーディネーターの堀内さんとともに  
アレンジ。

お問い合わせ | 県立長野図書館 企画課 | TEL: 026-226-4010 / e-Mail: kan.toshokan@nagano-pref.go.jp

その第一回で新しいバリエーションな空間をつくることについてお話ししていた  
いただいた建築家の三浦さんでした。三浦さん以外、図書館のデザイン  
も手掛けたおられます。

そして、2008年5月には「信州・学び創造ラボ」の開設に向けて、「信州・  
学び創造ラボ」設計デザインコンセプト検討ワークショップを開催。  
皆さんと堀内さんがファシリテーターとなり、「ソフトとハード、理想空間  
と現実空間、つくることと運営すること、つくることと利用することの連続  
性」を語り替え、図書館とまち、建築と人、人と人がつながる「公共空間  
としてのこれからの図書館をみなさんと共にデザインしました。  
この取り組みはラボのオープン後も「信州・学び創造ラボデザイン企画」  
として継続されています。

そんなプロセスで出合った4人が考える、これからの公共とは?公共空間と  
しての図書館とは?そしてそれをデザインするとは?  
そんな話をこの4人に、みんなで考え、対話します。

「こっそりごっそり  
としょかんをかえよう  
のそのまに」  
3月29日(日) 14:00-15:00



4/25の対話の前に、読者の4人と一緒に「信州・学び創造ラボ」  
プロジェクトまでの道のりを語り、Zoomで参加or Facebook  
配信視聴の実験を企画します!  
詳しくは県立長野図書館 Facebook、web サイトをご覧ください。



**三浦 文典** (みづら・ふみひこ)  
スター・イロップ代表。  
<http://starpilots.jp/>  
1974年東京都生まれ。  
早稲田大学卒業、ロンドン大学バートレット校ディプロマコース修了。早稲田大学大学院博士課程退学。  
2001年~2006年までNAICA勤務。  
2007年設計事務所スター・イロップ設立。  
大小さまざまなまちづくり、設計活動を進めながら、シェアオフィスや撮影スタジオなど、自ら経営や運営  
にも携わる。  
「道の駅 FARMUS 木島平」で2015年グッドデザイン賞(経済産業大臣賞)、2015年ICDデザインアワード  
受賞、日本建築業協会(AACA)賞、中研建築賞など受賞。2016年専門建築家特別賞(筑業賞)受賞。  
現在、東京原宿区、静岡県牧之原市、鳥取県鳥取市、高知県高岡十町の4つの自治体で図書館計画に  
携わる。著書に「起こらなかった世界についての物語」(2010、朝風社)、「こっそりこっそりまちをかえよう。」  
(2016、東館社)など。

**李明喜** (り・みよひこ)

アカデミック・リソース・ガイド株式会社 (arg) 取締役 CDO (最高デ  
ザイン責任者)。  
<https://arg-corp.jp/>  
1966年兵庫県生まれ。高校卒業。  
1998年、デザインチーム mat を立ち上げ、建築と公共施設、アートスペース  
の空間デザインやキュレーション業務を行う。  
2014年より、arg 社のデザイナーとして、賃貸ビル、駅周辺、西ノ島町、  
飯沼町などで、図書館を中心とした新しい文化施設づくりや地域のデザ  
インにあたる。  
図書館運営運営計画、ミュージアムキュレーションなどを担当した「溝  
賀川市交流センター sette」は、2019年グッドデザイン賞を受賞。



**瀧内 貴** (たきうち・とある)

株式会社コトト代表。  
1970年大阪生まれ長野育ち。デザイナー、企画家。  
地域に根ざし、さまざまな事業やプロジェクトの伴走者として、各種広告やウェブ  
サイトなどのデザインディレクションを手がけるほか、地域課題を整理、解決する  
ための活動やプロジェクトに携わるなど、グラフィックデザインや空間デザイン、  
プロジェクトマネジメント、コミュニケーションデザインとその周辺を専門領域としている。  
多様なコミュニケーションや、プロジェクト企画などを組み合わせた全体構築、ディ  
レクションを担当する。  
株式会社コトト 代表取締役、エリグラム株式会社取締役、まちの教室 ディレクター  
など。

**平賀 研也** (ひらが・けんや)

前・県立長野図書館長(2015.4~2020.3)  
1959年仙台市生まれ。東京育ち。  
法務及び経営企画マネージャーとして企業に勤務。その間に米国イリノイ州に暮らし、経営学を学ぶ  
(University of Illinois, MBA)。2002年長野県伊那市に移住。  
公共経営シンクタンク「総合研究開発機構」の研究員兼編集主任を経て、2007年~2015年の間、  
公募により伊那市立伊那図書館館長。伊那市立図書館は「図書館」という言葉の枠を超えた  
新鮮な提案とその推進により、新しい公共空間としての地域図書館の可能性を拓いている。」として  
Library of the Year 2013 大賞受賞。  
2015年4月より県立長野図書館長。県立図書館の事業改革プランを策定実施。「これからの図書館」  
の構築・空間・人に関わる提案と実行を続けてきた。県立長野図書館は「信州・学び創造ラボ」な  
どの取り組みを「知の公共性をむかひむきに志向した、真摯の舞台となる情報拠点の構築」として  
Library of the Year 2019 優秀賞受賞。  
東部あるARの獲得と世界の再発見。情報/デザイン向上に寄り添える地域情報拠点としての図書館。  
本質的な関係性で支えられる新しい公共圏の実現を目指してきた。





信州発・これからの図書館フォーラム「これからの公共について考えるための対話」  
シリーズ第4回 県立長野図書館「信州・学び創造ラボ」開設1周年記念



“こっそりこっそり としょかんをかえよう” の、そのあとに

# 県立長野図書館 三本の柱

---

「情報」と「情報」をつなぎなおす

「情報」と「ひと」をつなぎなおす

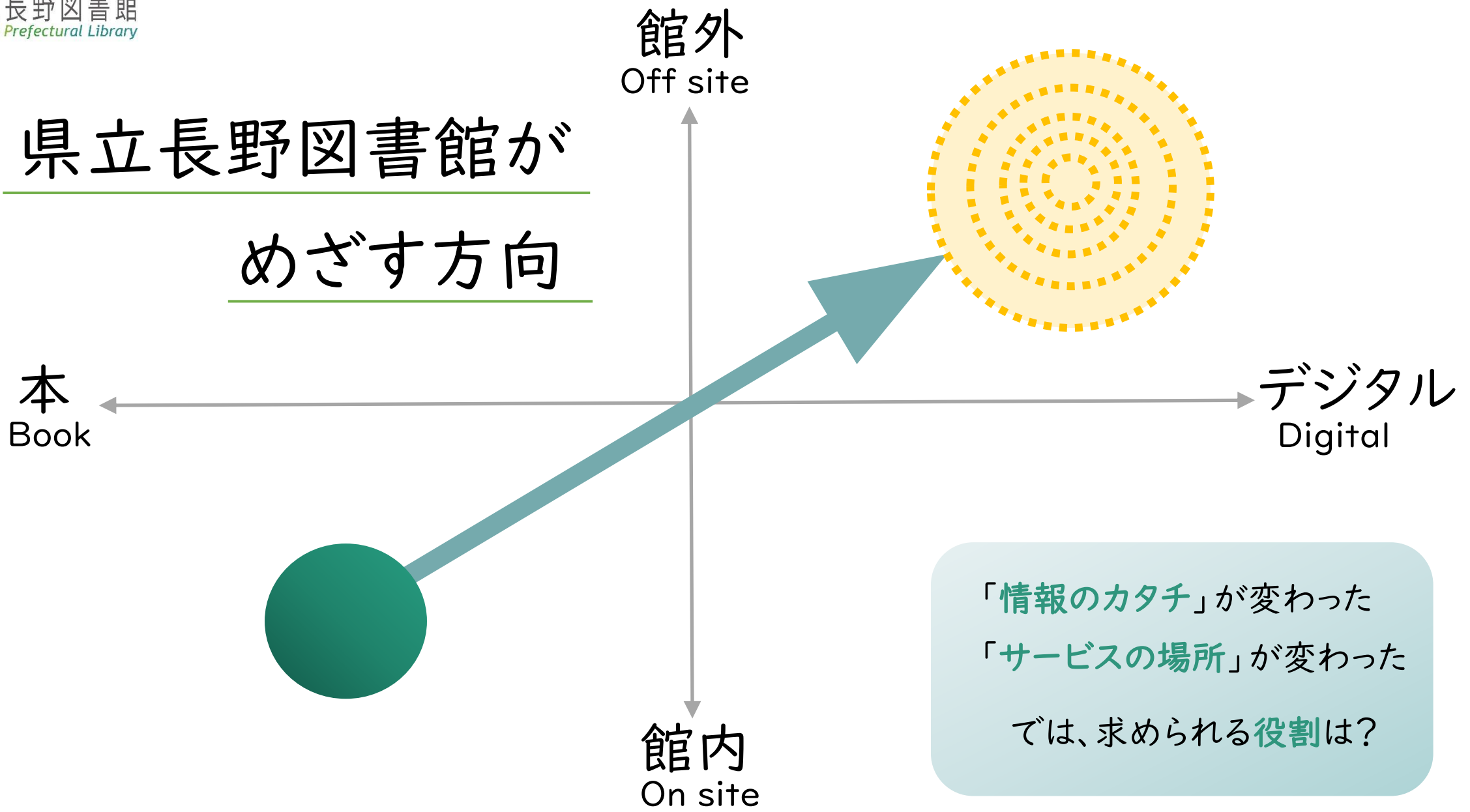
「ひと」と「ひと」をつなぐ

「場」  
の革新

「人」  
の変革

「情報」  
の改革

# 県立長野図書館が めざす方向



「情報のカタチ」が変わった  
「サービスの場所」が変わった  
では、求められる役割は？

# 「情報」と「情報」をつなぎなおす

## ■ 情報のカタチを見直す

- ・商用データベースの導入／広域利用実現に向けた働きかけ
- ・収集する情報資源の多様化／プログラムの開発・展開
- ・収蔵資料への新たな意味づけ



“本”だけではない情報資源の整備と、それに触れる機会・活用するためのプログラムの開発・提供

信濃図書館時代の蔵書や戦時中に検閲を受けた資料を手にとって見られる部屋



# 「情報」と「ひと」をつなぎなおす

## ■ 情報を「調べる」力・「創造する」力を育む

- ・「WikipediaTown」の開催支援
- ・探究学習プログラムの開発・展開／学校図書館等との連携  
(例:夏休み子ども向け企画「図書館王におれはなるっ!!!」実施、能動的に地域を知る「信州学」へのサポート)
- ・みんなが使えるアーカイブをつくる取組み (例:「どこコレ?信州篇」)

## ■ 情報を「体験する」空間を整える

- ・Wi-Fi、インターネット環境の整備
- ・“くらしの実感”を意識した情報の並べ方



信州・学び創造ラボオープニングイベントでは、市立小諸図書館の会場からもWeb中継でワークショップに参加していただいた



# 「ひと」と「ひと」をつなぐ

## ■ 「コミュニティ」がうまれる場所としての図書館

- ・「信州・学び創造ラボ」の整備 (ワークショップを重ねたプロセス)
- ・活動の核となる企業・団体等との連携  
(株式会社バリューブックス、信州大学教育学部、株式会社アソビズム…)



## ■ 「これからの図書館」のあり方をみんなで考える

- ・県内各地での「これからの図書館フォーラム」の開催

多様な属性、視点を持つ人々が集い、対話することで、地域の暮らしの中にある課題やニーズを掘り起こし、解決していける可能性が生まれるのでは？



県立長野図書館 フロア案内

1階： 「体験・発見」やってみ?!

「児童図書室」

1.



## 論理的思考力を育む

…「OSMO コーディング」

iPad専用のプログラミングゲームを常設しました。2020年度から小学校で必修化されたプログラミング教育の片鱗を、誰でも自由に体験することができます。一人でじっくり考えながら、またみんなでワイワイ楽しみながらブロックを手で組み上げ、ゲームを通して問題を解く道すじ(アルゴリズム)を体感してみてください。

2.



## リアルとバーチャル を行き来する

…「ほぼ日アースボール」

iPadやスマホをかざすと、好奇心を刺激するコンテンツが飛び出すビニール製の地球儀です。アナログのようであり、実は最先端の技術が詰まっているので、世界の写真や動画、データなどに楽しくアクセスできます。“地球”に触れながら、「もっと知りたい」のタネがたくさん見つかる、情報の世界への入口です。

3.



## 楽しみながら謎を解く

…百科事典探究クイズ

総合百科事典『ポプラディア』を使った問題に挑戦してもらい、解答には職員がコメントをつけて掲示する双方向型のクイズです。どの公共図書館でもできる「主体的・対話的で深い学び」へのアプローチとして、子どもたちの自発的な「知りたい!」を刺激します。『ポプラディア』の、データベース版も利用できるので、紙とデジタルにおける情報の違いも見えてきます。

4.



## 触れて感じる 「体験の貸出」

…外遊びグッズ各種

県立長野図書館の目の前には自然あふれる若里公園があります。この環境を活かし、子どもたちが「知りたい」と「調べる」の間で「感じる」を体験できるように、公園で使える双眼鏡や運動グッズなど「体験」を促す道具を用意しました。五感を駆使して、からだ全体で“知”を見つけてください。

5.



## 仲間との出会いと協働

…テーブルゲーム各種

将棋やオセロなどの定番から、まだあまり知られていない新しいゲームまで。テーブルゲームは、世代や地域を越えた共通の文化をつくるコミュニケーションツールであり、想像力を促し、創造力を培うきっかけでもあります。館内でご利用いただけますので、親子や友だち同士、また“はじめまして”の人とも 対戦してみてくださいはいかがでしょうか？

県立長野図書館 フロア案内

# 2階： 「世界」の再発見

「一般図書室」

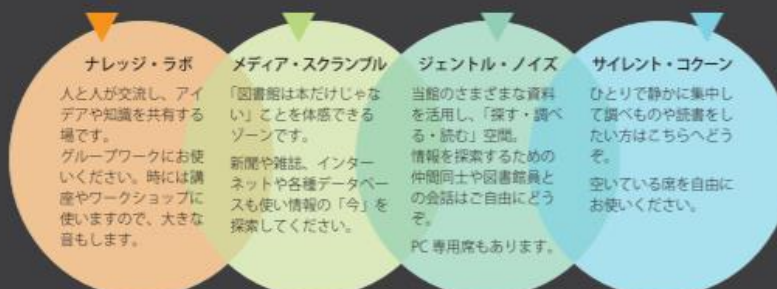


# だれもがそれぞれの「知る」を手にする場へ

県立長野図書館は、今の社会を共に生きるさまざまな人びとの「知る」の入口、場でありたいと思います。

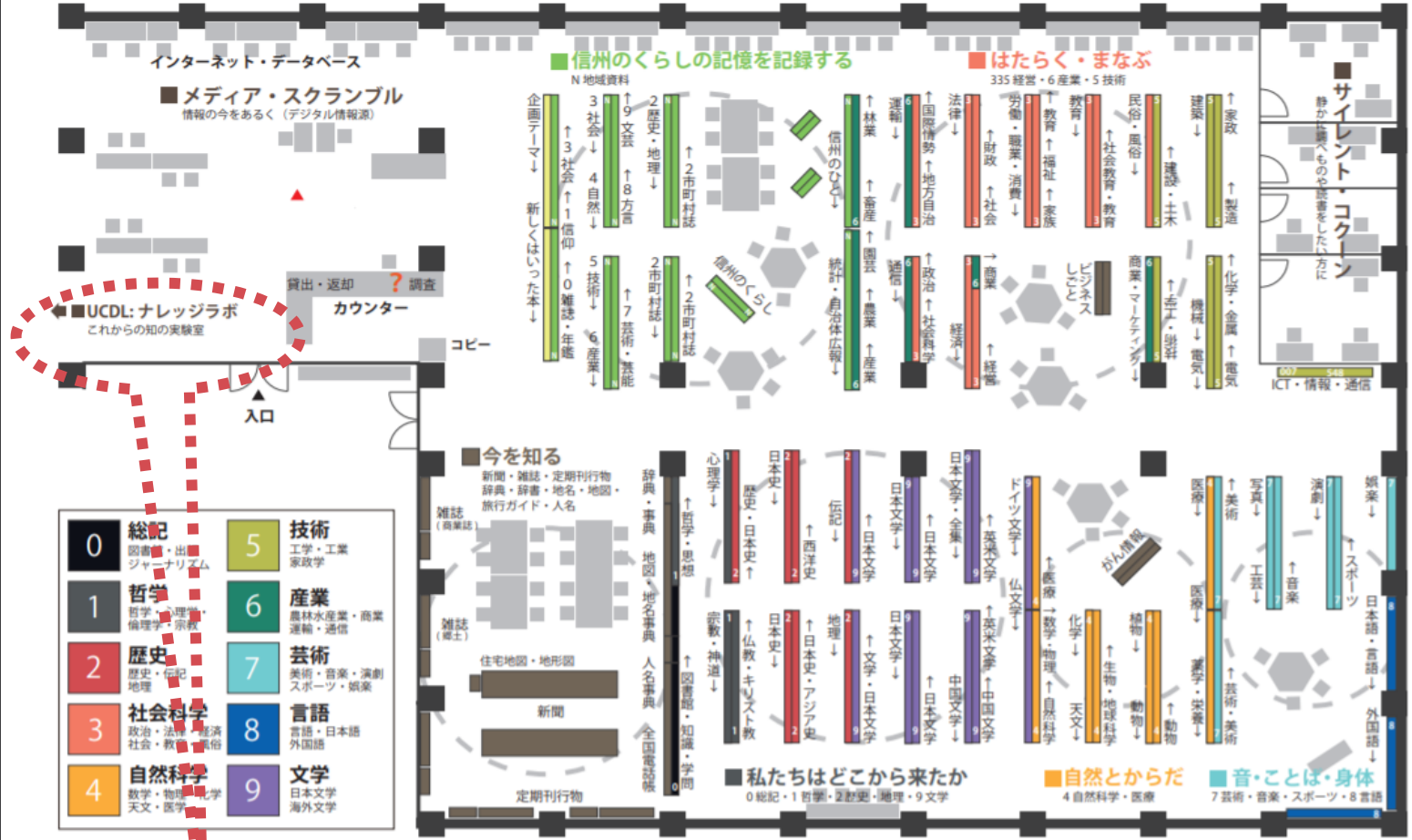
今、図書館は、そこに収蔵されている本を借りたり読んだりするだけではなく、デジタルな情報を探索したり、そこに集う人同士が共に学びあう場になりつつあります。ひとり一人が知識を獲得するだけではなく、みなさんが集い、交流しながら共に知り、共にこれからの社会を創造する場でもあるのです。

ですから、ただ単に「しーっ！静かに」ということではなく、みなさんが心地よく図書館員と話したり、仲間同士が語らうこともできるような場や時間も必要です。「多様な他者とともに自由に生きる場」、「地域の人びとが共に知り、共に創る自治の場」をみなさんと共につくりたいと、県立長野図書館は考えます。



## 県立長野図書館 2階一般図書室 配架案内

2019年3月1日



0 総記 図書・出版 ジャーナリズム	5 技術 工学・工業 家政学
1 哲学 哲学・心理学 倫理学・宗教	6 産業 農林水産業・商業 運輸・通信
2 歴史 歴史・伝記 地理	7 芸術 美術・音楽・演劇 スポーツ・娯楽
3 社会科学 政治・法律・経済 社会・教育・風俗	8 言語 言語・日本語 外国語
4 自然科学 数学・物理学・化学 天文・医学	9 文学 日本文学 海外文学

**ナレッジラボ**  
2020.9  
ネーミングライツ  
終了



県立長野図書館 フロア案内

# 3階： 「共知・共創」開かれた学びの場

「信州・学び創造ラボ」



# 信州・学び創造ラボ

「共知・共創（共に知り、共に創る）」をコンセプトとした「ラボ」は、人と人がつながり、共に学びあい、新たな社会的価値が創造されていく場を目指しています。それはまた、多様な人びとの自由な活動を実現するための運営方法やルールもみんなで考えていくという、これからの図書館や公共空間のあり方を考えるための実験室でもあります。  
信州のこれからの学びの姿を試し、体感できる場所として、ぜひ自由にご活用ください！



学びの成果を  
アウトプットする

ものづくり  
ラボ

3Dプリンター、  
UVプリンター、  
レーザーカッター、  
PC、展示棚 等



多様な情報や人がつながり  
アイデアを形にしていく

Co-learning  
ゾーン

ワークショップ用  
テーブル・椅子、ベンチ  
ミーティングブース  
マイクロライブラリー  
簡易キッチン 等



信州の知を集め、  
つなぎ、創造する場

信州情報  
探索ゾーン

六角形書架、  
展示棚、  
平置きタッチパネル  
ディスプレイ、  
信州白地図、黒板、  
ホワイトボード  
畳スペース 等



なぜ“コミュニティ”が必要か





ラボ運営の取組み①

# ラボ・デザイン会議

ーみんなで話し、ジブンゴトとして考える





ラボ運営の取組み②

# Labo Café (ラボ・カフェ)





「ラボでは、何ができますか？」

- …… 何ができると思いますか？
- …… 「誰」と、「どんなこと」をしたいですか？
- …… どうやったら、みんなとつながれますか？

“みんな”とは誰か

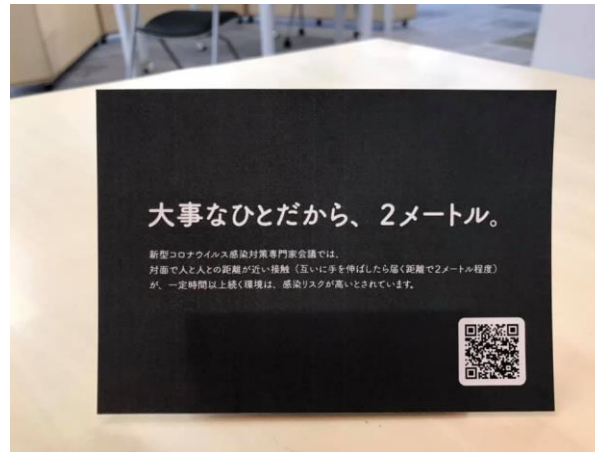
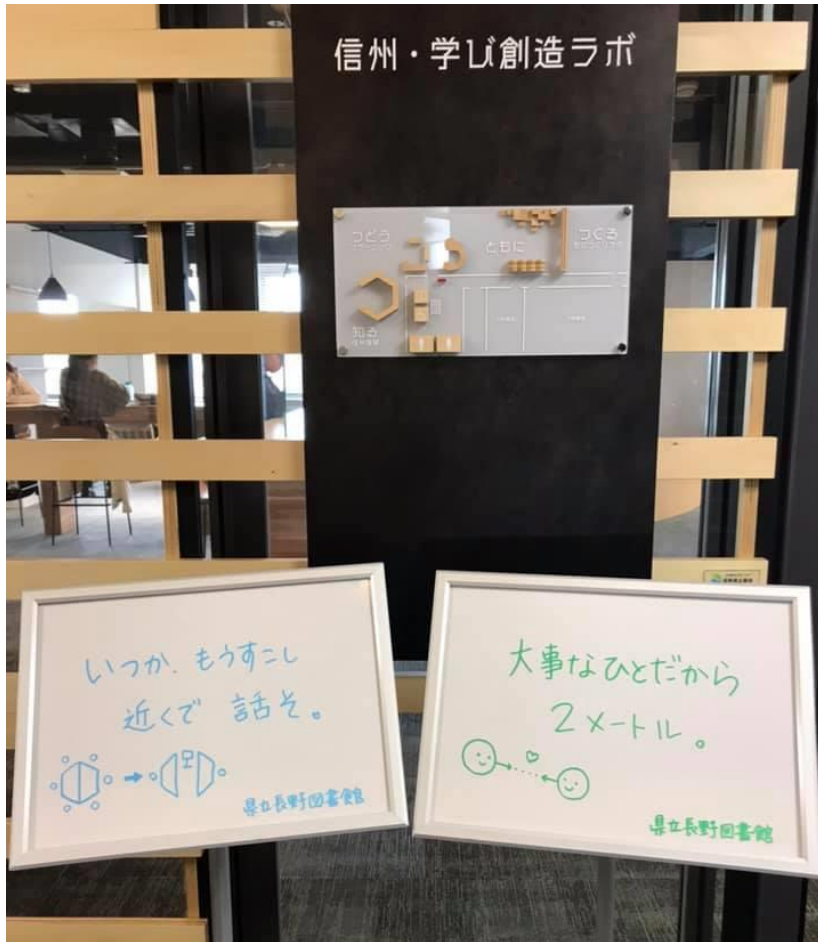


“THINK”  
And  
“TALK!”



“図書館「が」なにをできるか”ではなく  
“図書館「で」なにが起るか、起こってほしいか”

# 2020年 コロナ禍の中で



# 2020年上半期：社会状況の変化と図書館

---

- 2020年4月～5月（緊急事態宣言→休館）
  - ✓ 全国の休館率：92%
  - ✓ 長野県内公共図書館休館率：約70%、相互貸借実施率：50%
- 6月（経過観察）
  - ✓ 集合型イベントは極小規模
- 7月～8月第2波（経済との両立）
  - ✓ 慎重な対策による集合イベントの実施
- 9月～10月の状況（新しい生活様式の定着）
  - ✓ 開館しつつ三密を避ける（席数削減、食事制限、マスク着用）  
集合イベントは禁止ではないが慎重さが必要
  - ✓ 特殊状況の長期化⇒ニューノーマル



# 2020年上半期：県立長野図書館の運営指針

---

- 図書館運営でもっとも重視したのは  
「安心」・「安全」・「安定」

- 3つの「安」を前提とした「挑戦」

- ✓ 「資料・情報」を届ける


- 郵送貸出サービスのプロモーション
- メールベースでのレファレンス
- 「信州ナレッジスクエア」による学びのコンテンツの提供

#図書館は動きつづける

- ✓ 「場」を届ける

- ウェブを活用したコミュニケーションの場

配信元  
↓  
個人接続

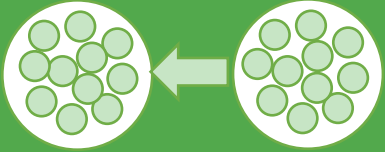


**コロナ急性期**  
 集合できない代替措置として  
 リアルからバーチャルへの転換

4月「公共フォーラム(こっそり  
 ごっそり)」本番・そのあとに  
 5月「ラボカフェ オンライン①」  
 6月「ラボカフェ オンライン②」

▲ 持続的な図書館活動  
 “図書館は動き続ける”  
 ▼ 接続・配信スキルが左右する  
 特定のターゲットを対象  
 「来館者のための図書館」

配信元  
↓ ↑  
受信会場

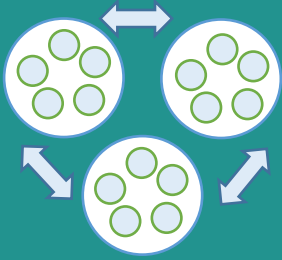


**コロナ緩和期**  
 「集まる」と「繋がる」を模索  
 リアルを取り戻す(立ち返る)

7月「ラボ・デザイン会議」  
 8月「ラボカフェ もりラボ」  
 9月「ラボカフェ うなずき珈琲」  
 10月「公共図書館長研修」

▲ 集まることの良さを再確認  
 コミュニケーションの可能性  
 “ウェブの中のパブリック”  
 ▼ 多くが“参加者”に留まる  
 関係性および場の固定化

配信元  
=  
サテライト



**コロナ共存期**  
 主体的選択としてのオンライン  
 リアルとバーチャルの融合

8月「公共フォーラム(一楽荘)」  
 9月「信州・知の連携フォーラム」  
 10月「長野県図書館大会」  
 10月「Re:Publicの逆襲」

▲ 双方向のやりとりによる“参  
 加者”から“場を作る一員”へ  
 の転換(主体的、能動的)  
 ▼ 意識共有と継続システム  
 (モノ・ヒト・コトの整備不足)

## ラボカフェ・グラウンドルール

### 耳をかたむけよう。

誰かが話をしているとき、自分の音声を「ミュート」にすると、お互いに聞き取りやすくなります。マイクマークをポチッとしましょう。

### うなずこう。

遠くの人と話をするのは、やっぱりちょっと不安です。わかりやすいリアクションがあるとうれしいです。拍手機能も使ってみましょう。

### 小出しにしよう。

画面の向こうにはたくさんの方がいて、それぞれ話したいことを持っています。トークはひとり2分以内を目安に、次の人に回しましょう。

### 手をのばそう。

知り合い同士も初めましての方も、参加するひとと運営スタッフも、誰もが同じテーブルにつく仲間です。みんなで作らしましょう。

ゆるやかな約束ごと

安心感

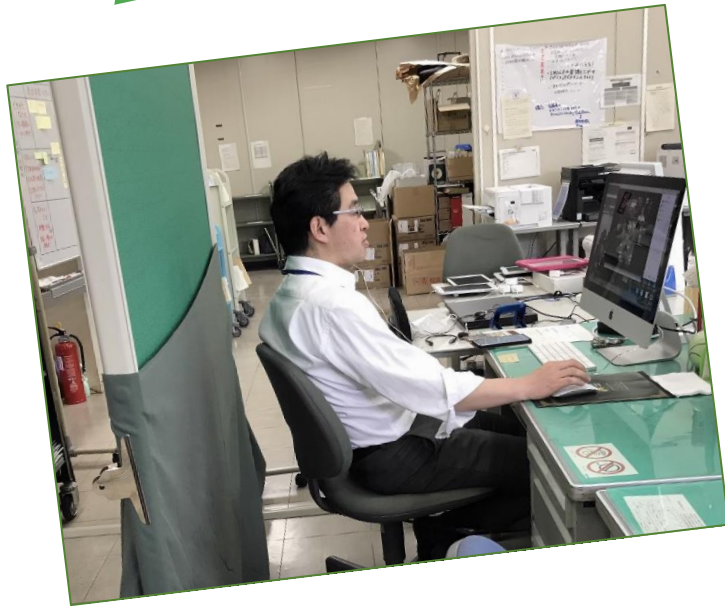


接続環境により、配信が不安定になることがあります。あらかじめご承知おきください。

万能の呪文

# ラボカフェ オンラインの会 (Zoom画面)

とどける



うけとる



## 長野県公共図書館長研修 (松川町サテライト会場)



あつまる

信州・知の連携フォーラム  
(塩尻会場から見た長野会場)



まじわる



ラボ・デザイン会議  
⇔ 遠隔ファシリテーター



ひろがる

公共フォーラム#03  
(富士見一楽荘 ⇒  
サテライト4会場)

つながる






「みんな」  
から

「わたし」  
になると

つづいてく

docomo 14:35  
#図書館運営  
37人のメンバー

 朝倉久美 08:26  
🙏 接続テストへのご協力をお願い 🙏

おはようございます。本日9:30-10:30に、12/1の午後に開催する地域情報活用研修のオンライン接続テストを行います。当日は全国から個別接続する方々がたくさんいますので、そのシミュレーションとして、お時間の取れそうな方は「お試し接続」にご協力いただけませんか？ オンライン会議システム「zoom」の下記リンク先にアクセスしてもらえれば、こちらで操作しますので、何も話す必要はありません。

zoom初心者の方、この機会に繋いでみるのもおすすめです。いきなりオンライン会議に参加するのは勇気が要りますが、今回のテストを運用しているのは篠田さん槌賀さん朝倉という身内も身内なので、何をやっても（失敗してもやり直しても）恥ずかしくない♡

お入りいただくのは上記時間の前半あたり、9:30-10:00でしたらいつでもかまいません。また、入室して数分後に勝手に抜けてもかまいません。端末はパソコンでもスマホでもタブレットでもOK。下記のリ



参加者 (13)

プロフィール検索...

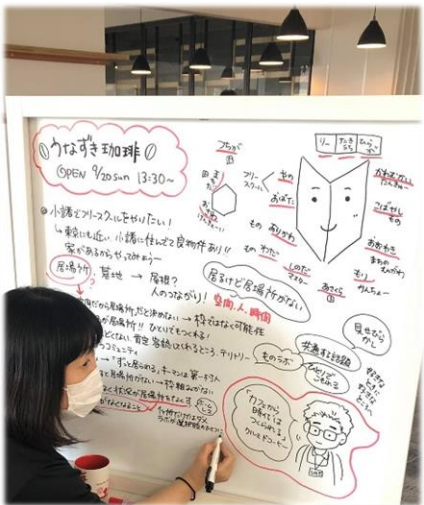
- 県立長野図書館 (ホスト, 私)
- Yoshi Takahashi
- あいつめ
- Integrc17
- katsuyuki monte
- MAKI HASHIDA の iPhone
- Mitsuru TSUCHIDA
- 県立長野 モニター
- 県立図書館
- 金子 裕代
- 長野県 図書館協会
- juu iPhone
- 県立長野 図書館2



“図書館サービス”とは何か

なぜ“コミュニティ”が必要か

“みんな”とは誰か



いつ、いかなるときも、  
情報の拠点となるために

“災害時”  
だから？

機器？  
技術？

「だけ」じゃない  
「も」ある

動き続ける図書館へ。